

□(1)現代文(採点基準)(文科)=合計40点

問1【配点5点】

A 1点

B 2点

(模範解答例) 現代社会での自己実現のための文化的な() or 他者との() 差異化を演技的に図る世界から

C 2点

離れた自己の確認はできるが、他者との関わりでしか『えられぬ自己の意味を喪失しているか』

A 「現代社会での自己実現」 1点

・「現代社会」「自己実現」()「主体」の「存在の充実」も可()の2ポイントがそろって初めて1点。

B 「文化的な差異化を演技的に図る世界から隔離した自己の確認はできる」 2点

・「文化的な差異化を演技的に図る世界」については「差異化の戯れ」と文中の表現をそのまま用いたものも可。
「これだけ」。

・「そいつの世界からの」「隔離」という内容と合わせて表現されていて1点 計2点

C 「他者との関わりでしか」『えられぬ自己の意味を喪失』 2点

・「他者との関わりでしか」『えられぬ』 1点。

・「自己の意味を喪失」 1点。計2点。

問2【配点5点】

A 1点

B 2点

C 1点

(模範解答例) 親密な他者の愛が自分に向けられ、差異化のための演技から解放された自分を 相対的に

D 1点

安定した形で肯定してくれる 精神的・観念的な関係を中心とする世界のこと。

A 「愛が自分に向けられ」 1点

B 「差異化のための演技から解放された自分」 2点

・「差異化のための演技」「解放」という2ポイントが必要。

文中の言葉をそのまま用いて、前者を「差異化の戯れ」、差異化のための扮戯「、
後者を『』あるが、其の『自分』、その『自分』と書いたものも可。

「ありのまゝ」「そのまゝ」「は原文中」「」が付されており、そのまま用いることは好ましくなく、
また勝手に「」を外すことも本来あまりよくないのだが、字数的制約も厳しいので、今回は不問。
よって「差異化のための扮戯をしないありのままの自分」と書いた解答は、2点を与える。

C 「相対的に安定した形で肯定してくれる」 1点

・「相対的」は必須。単に「肯定」とのみ書いたものは0点。

D 「精神的・観念的な関係を中心とする世界」 1点

問三 【配点5点】

A 1点

B 1点

C 1点

D 1点

E 1点

(模範解答例) 演技なまの自口への他者の肯定を自口で肯定する保証はないという他者認識の問題

題があり、しかも相互の評価通りの存在たらんとして、再び演技が必要とまなるから。

A 「演技なまの自口への他者の肯定」 1点

・演技なま「そのまを、おのまを、あひのまを、でも可。」

この内容と、「他者の肯定」「肯定的な他者の評価」といった表現が両方あって1点。

単に「他者の自口に対しての肯定的評価」としたものは不可。

B 「自口も肯定的に受容される保証はない」 1点

・ BはAに対しての「自口」の肯定という内容。 Aが大きくxで、Bは というケースは少数だろう。

C 「他者認識の問題」 1点

・このまの表現が必要。

D 「相互の評価通りの存在たらんとして」 1点

・互いは親密性の関係において、相手がそうした評価通りに存在することをもとめる」という箇所を踏まえていると判断できれば得点を与える。

・本来「互いに」という表現は必要なのだが、抜けていても可とする。

E 「再び演技が必要とまなる」 1点

・ Dに対して「演技が必要」と述べて1点。

「演技」「差異化の戯れに引き戻される」「再びマイテンティの危機の問題が生じる」という表現も可。

問題四 【配点5点】

A 1点

B 1点

C 2点

(模範解答例) 自口表現の演技性の私試も他者の演技の見極めも困難であり、また差異的な文化価値にお

ける相互評価を習性づけられ

演技を離れた相互の確認・肯定も困難であること。

A 「自口表現の演技性の私試」が「困難」 1点

・他者を前にすると、演技的に差異的な文化価値で身をつつむぶるまいをたたきこまれている」を踏まえた表現があるを判断せねばならず。

・思わず演技の殻をかぶって「自口」「素になれない」「自我」という箇所を踏まえたものも可。

B 「他者の演技の見極めも困難」 1点

・相手の『真実』であるかはわかりかねる」という表現も可。

C 「差異的な文化価値における相互評価を習性づけられ」 2点

・差異的な文化価値に感覚をこきすまし(1点)、他者をそつした価値で評価することを習性としている

(1点)を踏まえていると判断されれば、両方が入っていて2点。一方なら1点。

- D 「演技を離れた相互の確認・肯定も困難である」と「 1点
あるがままの『相手の存在を確認し肯定することの難しさ』という箇所を踏まえていれば1点。
「ありのまま」という」「の付された表現をそのまま用いても減点しない。

問五 【配点10点】

A 1点 B 2点

B'

(模範解答例) 現代社会では差別的文化価値との関わりの中で全ての主体は自己実現を図り得るを得ず、

C 2点

D 1点

E 1点

F 1点

危機に陥るアイデンティティの確保を親密性の関係に求めて 失敗すれば、主体の追求する

G 2点

文化的コミュニケーション、従って文化的支配のメカニズムを揺るがすことになるから。

(11104)

A 「現代社会」 1点

B 「差別的文化価値との関わりの中で」「自己実現を図り得るを得ず」 2点

・さまざまな表現が出ることで想定される。

前半 「差異」という言葉が用いられていれば、「差異化の戯れ」といった表現でも1点与える。

後半 「社会的存在として自己を実現」「社会のなかでの存在の充実」といった表現を踏まえていれば1点。

C 「危機に陥るアイデンティティ」 2点

・「アイデンティティ」の「危機」あるいは「飛散」「断片化」といった言葉が使われているのが望ましいが、『』本当の『自分をもとめ』という表現も可。

D 「アイデンティティ」の確保を親密性の関係に求めて」 1点

・「親密性」は必須。「部屋」「シェルター」といった比喻をそのまま用いたものは不可。

E 「失敗すれば」 1点

F 「主体の追求する文化的コミュニケーション」 1点

・原則的に「そのままでなければ不可。

G 「従って文化的支配のメカニズムを揺るがすことになる」 2点

・現代の文化的支配構造の基盤を揺るがす」も可。

・F・Gの論理関係は「したがって」と本文に因果関係が明示されている以上、それ以外の論理関係(たとえば「あるいは」など)は一切不可。因果関係が明示されていない場合は、1点減点。

問六 【配点各2点】

a 〓 翻弄 b 〓 憂 c 〓 憤激 d 〓 防波堤 e 〓 挫折

dの「堤」を「提」と書かなければ。

②(古文)『南方録』(採点基準)(文科)合計30点

注意 文科と理科で設問・配点が異なります。これは文科の採点基準です。

この設問では、誤字・脱字・読めなご書かざらば、「」を「」など、なごの使われ方の誤ら、正しくなご表現等は、その程度に合わせて減点しない。

問一 各3点

ア(文科のみ) 【配点3点】

A B C

(模範解答例) 華やかなものが何も無い 簡素静寂の極致が 海辺の古屋である。

A 華やかなものが何も無い

「無い」の修飾語として「全く・一つも」等があっても可。

「何も無い・何も無いこと」等、「華やかなものが」がない場合は、減点1。

「華やかなものが」「花や紅葉が」でも。しかし「目立ったものが」となっている場合は、減点1。

「無一物」の意を誤っている場合は、減点3。
×他に類を見ないほどの

B 簡素静寂の極致が

「簡素静寂の」に相当する表現がない場合や誤っている場合は、減点1。
×簡単なもの

「極致」に相当する表現(極めたもの・極限)がない場合や誤っている場合は、減点2。

×場所・×境界。「極致」を「境地」としている場合は、減点1。

「極致が」の「が」「の」となっている(直前部を主語でなく修飾部としている)場合は、減点1。

C 海辺の古屋である。

「海辺」は「海岸」でも可。「水辺」等海であることが明確でない場合は、減点1。

「浦」のままは、減点1。「ここに相当する訳語がない場合も、減点1。

「古屋」はそのままで可。「粗末な小屋・みすぼらしい小屋」等も可。

「古屋」の説明が具体的にないとしても可。
×古で屋根を葺いた粗末な小屋。

「なり(断定)の訳(だ)である(が)がない減場合は、減点1。
海辺の古屋×」。

文末が過去表現(した)等になっている場合は、減点1。
古屋であった×だ。

何かを「浦の古屋」と比較しているような表現は、減点3。
海辺の粗末な小屋×と変わらな。

エ 【配点3点】

A B C

(模範解答例) 歌道の考え方は 別の細かい事情も めるのだらうけれど。

A 歌道の考え方は

「歌道」は「和歌(歌)の道」・「和歌(歌)の世界」・「またはそれに準ずる表現でも可。

「考え方」は「これかこれに準ずる表現でなくてはならず、次のような表現は、減点3。

・ ×心持ち
・ ×歌の心
・ ×情趣の心
・ ×手法
・ ×本質の部分
・ ×目指す

「では」「は」「は」は「は」でも可。

B 別の細かい事情も

「別の」はなくても可。「他に」いろいろ「等」の修飾語でも可。「細かい」は「細かな・詳細な」でも可。

A 華やかなものを

「華やかなもの」は「美しく華やかなもの・色鮮やかなもの」でも可。

「華やかなもの」の美しさ・華やかなものの趣深さ(風流)等でも可。

「華やかなもの」の例で「花・紅葉」があっても可、「華やか」もしくはそれに準ずる表現があれば可。

花や紅葉の 華やかさを ・花紅葉など 華やかなものを ・花や紅葉の 色鮮やかな景色を

・ 華やかな花紅葉のながめを

ただし、例を挙げておらず、そのまま書いている)「華やか」またはそれに準ずる表現なし(場合、減点4。

・ x 花や紅葉を ・ x 花紅葉の風流を

「華やかなもの」を「華やかな茶室・書院台子が整った茶室」等、「茶室」としている場合は減点2。

「華やかなもの」が「目立ったもの」等、誤った表現になっている場合は、減点4。

B 体感していない人が

「体感していない人」は次のような表現でも可。

知らない人・理解しない人・知らぬ人間・実際に触れたことがない人・知らなければ

堪能して初めて) 以示したような模範解答とは逆の書き方をしている場合)

ただし、こなれていない表現の場合は、程度に合わせて減点する。 実際に 触れ知らぬ人(減点1)

C いきなり

「いきなり」はなくても可。「最初から・急に」等でも可。

D 簡素静寂の境地に達することはできない

「簡素静寂」の例として「古屋」があがっていても可、「簡素静寂」もしくはそれに準ずる表現があれば可。

古屋の 簡素静寂の境地

ただし、「簡素静寂」やそれに準ずる表現がなく、具体的に「古屋に住む」の意となっている場合は、減点4。

x 古屋古屋には住むことができない・ x 簡素な古屋には住めない

「簡素静寂」はそれに準ずる表現でも良い。こなれていない表現・誤った表現は、程度に合わせて減点。

x 寂けさ(減点4)

「境地」は「素晴らしさ・良だ」等でも可。

「に達することはできない」「は」「にはたどりつけない」などわからない」等でも可。

「に達することはできない」が、「に気づかない」を受け入れられない」等、「到達・理解」から離れてい

る場合は、減点2。

以示したような模範解答とは逆の書き方をしている場合は、「到達できる」・「わかる」で良い。

E ことごとく

文末表現が「ことごとく」になっている場合は、減点2。

達することはない x だるうつ

問三 【配点5点】

(模範解答例) 雪間から萌え出るわずかな草にま 春を知る ことごとく ことごとく

A 雪間から萌え出るわずかな草にま

「花だけでなく・華やかな花ではなく・山里の」等の表現があっても可。

「わずかな」もしくはそれに準ずる表現)」「華やかとは言えない」等(がない場合は、減点¹。

雪間の草・山里の雪の間に(から)出(出てくる)出(出る)草

「にも」は「からでも・からも」等でも可。この表現がない場合は、減点²。

山里の雪間の草が出(で)て・雪間から生(生)える草 出(で)

「にも」が「にこそ」となっている場合は、減点¹。

「雪間の草」を華やかでないものとして扱い、一般化している場合、減点²。

・ 華やかでないものにも ・ 花のような華やかでないものからも

・ 一見趣のない雪の山里での春の息吹からでも

「雪間の草」を目に見えないものとして扱い、一般化している)」「雪間の草」に相当の表現なし(減点³。

・ 目に見えない美しさだけを楽しむのではなく ・ 目に見えることその他にも

B 春を知ることができない

「春を知ることができない」「は、春は感じ取る(感じ取る)ことができない・春を感じとりた(感じとりた)」「でも」可。

可能的の意味が抜けている場合は、減点¹。 春を感(感)じる

「風流を感じられるものがある・趣がある」等、減点¹。

「自分の心の中にも目を向けてほしい」「または、それに準ずる内容となっている場合は、減点⁵。

C ことごとく。

文末表現が「ことごとく」ということになっていない場合は、減点²。 ことごとく。x。

問四 【配点5点】

A

B

C

D

(模範解答例) 何もな(な)い(い)と(と)い(い)ふ(ふ) 感(感)興(興)を(を)催(催)す(す)も(も)の(の) 自(自)然(然)と(と)生(生)ま(ま)わ(わ)れ(れ)て(て)く(く)る(る)よ(よ)う(う)の(の)よ(よ)

A 何もな(な)い(い)と(と)い(い)ふ(ふ)

「何もな(な)い(い)と(と)い(い)ふ(ふ)」は、「花(はな)な(な)ど(ど)何(なに)も(も)な(な)い(い)と(と)い(い)ふ(ふ)か(か)ら(ら)・簡(かん)素(そ)静(じやう)寂(じやく)の中(なか)にも」等でも可。

曖昧な指示語がある場合は、減点¹。 x そ(そ)の(の)何(なに)も(も)な(な)い(い)と(と)い(い)ふ(ふ)か(か)ら(ら)

「質素な中(なか)に」のように表現が正確でない場合は、減点²。

「何もな(な)い(い)」の例として、「雪間・山里の一面の雪」等も可)。「何もな(な)い(い)」またはそれに準ずる表現は可)。

何(なに)も(も)な(な)い(い)山(やま)里(り)の(の)雪(ゆき)間(ま)に

「何もな(な)い(い)と(と)い(い)ふ(ふ)」に相当する表現がない場合は)」「雪間・山里の一面の雪」等があっても、(減点³。

x 山(やま)里(り)の(の)雪(ゆき)間(ま)に

「雪間の草に・春が来て雪がとけることにより見られる草に」のよ(よ)う(う)に「草」に無(む)点(てん)減(げん)点(てん)。

B 感興を催すものが

「感興」を「感動」としている「感動をな(な)さ(さ)す(す)も(も)の(の)」が「感動を呼び起こすような所作が」等も可。

「感動は」のよ(よ)う(う)に感動自体としている場合、減点¹。 感動を与えるものが正確さを欠くものは、減点²。

・ 感動を与える 生命(いのち)が ・ 感(感)興(興)を(を)催(催)さ(さ)せる 草(くさ)が

「感興を催すもの」に相当する表現がない場合、減点⁵。

x 素晴らしい草が生えてくる ・ x 季節が感じられる ・ x 華やかさが

C 自然と生まれてくる

「自然と」が「人間が手を加えずとも・意図的でなく」等、必要以上に説明がある場合は、減点1。
「生まれてくる」「は」「生じる」・生まれてくるものである・見いだされる・ある・含まれている」「でも可」。

D じつもの話

「とする点」「は」といつ点・点」でも可。文末表現が「点」になっていない場合は、減点2。

問五 【配点4点】

A

B

C

(模範解答例) 茶道だけでなく、仏の悟りに通じている点が、非常に優れている。

A 茶道でだけでなく

主語は書かれていなくても可。

主語として「達人は・道を極めた人は」「千利休・利休」「利休と紹」があっても可。

ただし、主語が「紹」・だけになっている場合や、誤った人物になっている場合は、減点1。

「茶道だけでなく」「は」「茶道のみならず・茶の道だけではなく」等でも可。

また、「茶道」と書かれていなくても、「一つの道を究めること」で「のちうな表現であれば可」。

人物について言っていない場合は、減点3。

単なる

茶道の話ではなく

仏の道に通ずる話とは

B 仏の悟りに通じている点が、

「仏の道にも通じているのが・仏の道にも通じており・仏教の悟りに通じていて」等でも可。

「仏の悟り・仏道」が明らかでない場合は、減点2。

他の道をも悟ることができるのは

「本当に尊ぶべきなのは釈迦の悟った道」のようになり、茶道との比較で仏道をより重要とするもの、減点4。

C 非常に優れている。

「非常に」「はななくても可」。

「優れている」「は」「素晴らし」「なま可」?。仏の道にも通じている。素晴らし。「」のみの「」文でも可。

「殊勝」の訳語(優れている・素晴らし)がない、もしくは誤っている場合は、減点2。

「それに及ばない自分は謙虚であるべきだ」のようになり、「殊勝」の意を「謙虚であれ」の意であるとしている

場合は、減点4。

③ (漢文) 採点基準 (文科) = 合計30点

注意 文科と理科で設問・配点が異なります。これは文科の採点基準です。

漢文部分が全くの白紙である答案も、解答用紙下段の採点者記入欄に点数(0)だけは入れてください。
(解答欄に×などを記入する必要はありません。)

減点法で採点する問いがあります。

減点ポイントが満点を上回ったら、そこで終了、0点とします。

問一 7点

a (1点) b (2点)

c (1点)

d (2点)

(模範解答例) 富貴な人が 立身出世に没頭して 書画をさし迫って必要のないものと 軽たじむように

e (1点)

なった から。(7点)

部分的にあっても全体の主旨が間違っているものは、部分点だけを与えることはしない。

a、「富貴な人が」…主語があること。

高貴な人が…

豊で身分の高い人が…

高貴で教養のある人が…

紳士大夫たちが… (文中の語のままだがOKとする)

布衣の処士が…×

無位無官の民間人が…×

山林の士が…×

b、「立身出世に没頭して」…「仕進に溺情し」の内容。

立身出世に夢中になり…

立身出世に精を出し…

出世や地位に情熱を注ぎ…

昇進することに没頭するようになり…

c、「書画を」さし迫って必要のないものと「不急の務と爲し」の内容。

「ここを省いている答が非常に多い」× マイナスー

急を要しない事だと思ひ…

いそがなくてもよいと思ひ…×

d、「書画を」軽たじむようになった「書画を薄たじ」or「復た心を留めず」の内容。

書画に心をとめなくなった… 書画を軽視して…

画を書かなくなった… (マイナス1点)

e 「から」…理由説明の答え方。

…のり… …ため… …という理由…

a～dまでの内容の内容が×で、ここだけあってもダメ。

問一 8点

a) 2点

b) 1点

(模範解答例) 貧賤で生活も苦しい境遇にいると 人との交際や援助が少なく

c) 2点

d) 2点

e) 1点

優れた技芸を持っていても 人に知られないまま死んでしまっ から (8点)

部分的にはあっても、全体の主旨が間違っているものは、部分点だけを与えることとはしない。

a、「貧賤で生活も苦しい境遇にいると」「貧賤隠物は」の内容

貧しくて身分の低い人は… 貧しく苦しい生活をする人は…

隠者として山林に住む人は…

貧しい人は… (マイナス)

豊かで身分の高い人は… x (この段階でb～dもおそろしくx)

b、「人との交際や援助が少なく」…「交響く援罕にして」の内容

周囲との交流も少なく援助もまれで… 人との交際が少なく (「交響のみ」…

人からの支援も得にくく)「援罕」のみ)

c、「優れた技芸を持っていても」…「絶世の技有りとも雖も」の内容

良い技術を持っていても 能力がいくら優れていても 優れた技能を持っていたとしても

妙技を持っていても… マイナス

優れた芸を持つ者も… x (「芸」はx)

d、「人に知られないまま死んでしまっ」…「老いて下」に死せば…「人知るに及ばざる」の内容

知られずに死んでしまっ… 家で死ぬだけで人に知られない…

e、「から」…「ため」…「という理由」など、理由説明の答え方。

a～dまでの内容がx、ここだけあってもタx。

問三 4点

a) 2点

b) 1点

c) 1点

(模範解答例) 「富貴よりも貧賤のほうがよく」ところのは ただの 「よひ」 「よめ」 (4点)

a 富貴より貧賤がよく「と」ころのは…「富貴は貧賤に如かず」の比較形の訳し方。

「で」…「く」…「く」…「く」…「く」…「く」…「く」…「く」…

「富貴は貧賤に及ばない」「でもOK…」…「貧賤のほう」が富貴よりもよ「く」…

「金持ちより貧乏なほうがよく」「く」…「貴・賤」の意味が不足だがOKとする(ゆ)

「裕福は貧乏に及ばない」…

「富貴は貧賤よりよ「く」…「く」…」

b「ただの」…「徒だ」…「のみ」の訳。

限定の訳がないもの… x

「ま」…「ま」…「ま」…「ま」…「ま」…「ま」…「ま」…「ま」…「ま」…

「さうして」「さうして」…「虚語」の訳

うそ、でたらめ、虚言…

問四 4点

(解答) 書画

書画のみ正解。あとは いっさい×。

問五 7点 (文科のみの設問)

a) 2点

b) 2点

c) 2点

d) 1点

(模範解答例) 書画に優れた者が、紳士大夫階級から民間や山林の隠者に移ってきた時代の變化。

a～dの順については、ゆるやかに。

(解答例1) 以前は、紳士大夫から出ていた書画に秀でた者が、民間や隠者に移行してきた時代の變化と流れ。(7点)

b

a

c

d

(解答例2) 高貴な人が書画に優れていた時代から、隠者が書画に優れるようになった時代の變化。(6点)

b

a

b'

c

a'

c'

d

(解答例3) 時代が変わって、何の地位もない民間人から書画の名士が出現するようになったこと。(5点)

d

c

a

c'

(解答例4) 貧しくて身分が低くても、山林で隠者としての足跡を残してきた者が

a

d

このような条件のつけ方は×(マイナス) c

書画で有名になる世の中が変わったこと。(4点)

(解答例5) 書画に優れた人が、富める人から貧しい人へ変わってしまったこと。(4点)

a

b

c

(b・c各マイナス)

四 現代文・文科のみ（採点基準）文科＝合計20点

問一 【配点5点】

A 1点

B 1点

（模範解答例）大人が自分の答えの絶対性を錯覚して、子供はそれを契機に問いから問いに移るといっ本

C 1点

D 1点

E 1点

性を見失って、強迫的に答えれば、子供は問題に傾倒できず、大人にもなれないから。

A 「自分の答えの絶対性を錯覚」 1点

B 「子供はそれを契機に問いから問いに移るといっ本性を見失って」 1点

C 「強迫的」 1点

D 「問題に傾倒できず」 1点

E 「大人にもなれない」 1点

以上五点で採点。

問二 【配点5点】

A 1点

B 1点

C 1点

（模範解答例）問題とは有用性を離れて、それ自体に傾倒し、思考の快楽を求めるものであるが、子供に

D 1点

E 1点

は諸問題を駆け巡るだけでなく、問題を創造し専心できる素養があるから。

「問題とは」 A 「有用性を離れて」 1点

・何の役に立つのか「と」この表現を用いても可。

B 「それ自体に傾倒」 1点

・重要なのは問題である「と」書いただけでは不可。

C 「快楽」 1点

・楽しむ」という表現も可。

「子供」 D 「諸問題を駆け巡る」 1点

・権利上、何でも問う者であり、気軽に、そして無責任に問い続け、大人の答えを契機にしながら問いから問いへと再現なく飛び移って行く」という箇所を踏まえたものも可。
・ただし、何の説明もなく、「移り気情念」、あるいは「移り気」と書いたものは不可。

E 「問題を創造し専心できる素養がある」 1点

・「創造」と「専心」の2ポイントがそろって1点。

問三 【配点5点】

A 1点

B 2点

（模範解答例）父が知性で無限を知ることなく、子供の権利たる行為や要求の水準での無限を体現する「

C 1点

D 1点

」と「父の知性」の機能を実現させず、子供の無限を理解せず、父の水準での無限を体現する「

A 「知性で無限を知ることなく」 1点
・「知性」が必須。

B 「行為や要求の水準での無限を体现」 2点
・このままであることが望ましい。特に「体现」が欠けると「対比」が不明瞭になるために、「このワードは必須。単に「無限の要求」とのみ押さえたものは1点（多数出ることが想定される。）

C 『「限界」としての機能を果たせず』 1点
・この「限界」については筆者自身が「差し当たり何であり、誰に担われているかは第一の問題ではない」と述べていることから、そのまま用いて差し支えない。また、「」を勝手に外したのも可とする。
・「限界」という表現の変わりに「極限」という語を用いたのも可。

D 「子供に無限を理解させられない」 1点
・原則的にはこれ以外の表現は不可。（同内容と判断されればその限りではないが。）

問四 【配点5点】

A 1点

B 1点

C 1点

(模範解答例) 大人が無限の要求を行う 身体として 同様の要求を子供にも教授して

D 1点

E 1点

無限の不可能性を教える、限界の機能の喪失が社会全体で着々と進行して止められない」と。

A 「無限の要求を行う」 1点

・同内容と判断されればこの通りでなくとも可。

B 「身体として」 1点

・「身体」というワードが望ましいが、「無限を知る」ための「知性」も欠如といったような「知性」というワードを用いたのも可。

C 「同様の要求を子供にも教授」 1点

・拾いやすいポイントでもあり、原則的にこのままであることが望ましい。

D 「無限の不可能性を教える」『限界』の機能の喪失 1点

・単に『「限界」の機能の喪失』と書いたものも可。

E 「社会全体で着々と進行して止められない」 1点

・単に「着々と進行」としたただけのものも可。（かなり甘い採点ではあるが。）